

関西学院大学体育会航空部 年表

戦前編

1930年	昭和5年	6月2日	関西学院学生航空研究会は関西学生航空研究会のトップを切って、大阪朝日新聞社城東練兵場格納庫にて発会。
		6月14日	3月に設立されていた京都帝国大学航空研究会と関西学院航空研究会が連携して、関西学生航空連盟を結成。
		6月14日	立川飛行場にて、日本学生航空連盟発会披露式「空の会」開催。
1931年	昭和6年	9月20日	学院運動会。「ベーツ院長の挨拶に始まり、飛行機は乱れ飛ぶ」との記載。
1932年	昭和7年	7月21日	名倉三郎 三等飛行操縦士に合格、関西初の学生操縦士となる。
		10月17日	関西学院 大学昇格記念祭にて祝賀飛行。
1933年	昭和8年	10月17日	新校歌「空の翼」発表。玉井秀雄（学生）操縦の飛行機より五色ピラ、メッセージを投下。
1934年	昭和9年	11月3日	第1回全国学生航空選手権大会開催（羽田国際飛行場）。関学選手：永井要、衣笠武男、辻賢造、金子良夫、中來田隆二、名倉三郎（OB）、玉井秀雄（OB）。東西対抗三角リレーに優勝。
1935年	昭和10年		関西学院学生航空研究会にグライダー部発足。
		10月28日	第2回全国学生航空選手権大会開催（盾津飛行場）。関学選手：辻賢造、金子良夫、中來田隆二、森重猛夫、衣笠武男、永井要、玉井秀雄。5種目に出場、4種目に優勝。
1936年	昭和11年	9月2日	第1回全日本グライダー大会開催（霧ヶ峰高原）。
		9月	訪満飛行（東京～満州）に中來田隆二、森重猛夫 参加。
		11月11日	第3回全日本学生航空選手権開催（羽田飛行場）。関学選手：辻賢造（4年）、金子良夫（4年）、中來田隆二（2年）。東西対抗リレーに優勝。
1937年	昭和12年	11月	第4回全日本学生航空選手権開催（盾津飛行場）。関学選手：森重猛夫（3年）、永井要（OB）。通信筒吊上競技、OB組模擬弾投下競技 優勝。
1938年	昭和13年	8月	第1回全日本学生グライダー競技大会開催（霧ヶ峰高原）。
		11月	第5回全日本学生航空選手権大会開催（羽田飛行場）。関学選手：森重猛夫。通信筒吊上競技 優勝。
1939年	昭和14年	7月	第1回全日本学生グライダー競技大会開催（朝霧高原）。
			第6回全日本学生航空選手権大会開催（大阪第2飛行場）。
1940年	昭和15年	4月	紀元2600年国土一周奉祝飛行。勢山五郎が隊員として飛行。
		7月	第3回学生グライダー競技大会開催（霧ヶ峰高原）。関学選手：江川良雄、磯部 明、澤田精二。第1部3位（出場49名）、第2部B4位（出場21名）。東京で開催予定のオリンピックにグライダーを正式種目に指定。
1941年	昭和16年	2月11日	学院学生会解散、報国団結成。 航空研究会は国防部航空科（飛行班・滑空班）となる。
		10月25日	第8回学生航空大会開催（大阪第2飛行場）。関学選手：森重壽夫（4年）、吉井賀雄（予科2年）。
1942年	昭和17年	4月1日	日本学生航空連盟を「大日本学生航空隊」と改名、大日本飛行協会に編入。
		8月	第4回全国学生グライダー競技大会開催（霧ヶ峰高原）。関学選手：磯部 明（3年）、小島正雄（4年）、吉川由章（3年）。
		10月	満州国建国十周年祝賀学生訪問飛行（羽田～新京）に吉井賀男（商経学部2年）が参加。
		11月	国防部航空科に機関班誕生(加納隆衛：高商2年、楠本幸一：高商2年、犬塚彰：予科2年)。 大学航空科とは直接関係はなかったようであるが、この頃中学部に滑空班ができ、プライマリーの練習を行っていた。また滑空機格納庫が建築された。
1943年	昭和18年	9月13日	関学大体錬部航空科機関部解散。
		12月	在学徴収延期停止の法令。学院の徴収適齢以上の在学生の大部分が招集。関学大体錬部航空科：正田啓造、松井香 出兵。
1944年	昭和19年	6月	西崎健次郎、須野恵 出兵。
		12月	残った部員 瀬尾利治、前田剛之助、吉村利文、辻内健も出兵。関西学院国防部航空科は閉鎖。
1945年	昭和20年	9月	関西学院大学「報国団」は「学生会」と改称。
		10月	大学授業再開。
		11月15日	文部省、グライダー訓練廃止の方針を通達。
		11月18日	GHQ覚書発令。（12月31日をもって、航空機模型から航空機の操縦、航空機に関する研究、教育までの一切の航空活動および組織を禁止。航空局を廃止。）

戦後編

1952年	昭和27年	4月1日	関西学院大学航空研究会 再発足。部長：正田啓造。
			篠原五郎、亘理一省(1年)、山本弘(1年)が勧誘を始め、前中和夫(4年)、高岸豊(3年)、田中敏夫(3年)、西村宏志(3年)、篠永脩(2年)、安田晃次(1年)が入部、9名でスタート。
		6月1日	学生航空連盟発会式。 関学大「航空研究会」学連に加盟。 前中和夫（関学大4年）が戦後初の学連関西支部学生委員長に就任。
		8月25日	玉水滑空場で第1回合宿（～9月3日）が行われ、関学からは、前中和夫、田中敏夫、高岸豊 等が参加。

		10月	「航空研究会」を「航空クラブ」に改称し、運動総部に加入。
1953年	昭和28年	7月22日	玉水滑空場で夏季グライダー合宿練習(～8月4日)が行われ、関学からは塩塚幸雄(1年)他が参加。
		7月26日	松下電器産業株式会社より学連関西支部に寄贈された中級機：ナショナル号贈呈式に、前中、安田、亘理、森重(猛)が参加。
1954年	昭和29年	5月	関学「航空クラブ」から「体育会航空部」に昇格、大学より部費が付く。
		7月	関西支部戦後初の学生「滑空機(中級)」自家用操縦士合格、亘理一省(3年)、山本弘(3年)、安田晃次(3年)。
		9月12日	第1回全日本滑空競技大会(玉川 読売飛行場)開催。学連より18名が個人資格で参加、関学選手：亘理一省(3年)、安田晃次(3年)。
		9月19日	第1回関西支部グライダー競技大会(高松飛行場)開催。2位：安田晃次(3年)、3位：亘理一省(3年)。
		10月1日	各支部から24名の学生がバイパー・カップ「つばめ」「小鳩」の2機に分乗し、全国健康優良校訪問日本一周飛行実施。関学からは、亘理一省(3年)、山本弘(3年)、安田晃次(3年)が参加。
1955年	昭和30年	1月	日本学生航空連盟関西支部、学生委員長に亘理一省(3年)、副委員長に安田晃次(3年)就任。
		8月4日	自家用操縦士滑空機(中級)、塩塚幸雄(3年)合格。
		8月29日	第5回全日本学生グライダー競技選手権大会が、霧ヶ峰滑空場において開催(～9月1日)され、1部に安田・亘理、2部に山本、3部に塩塚が出場。 学校得点1位、個人 1部 安田:3位、亘理:4位、2部 山本:4位、3部 塩塚:優勝。
		9月25日	第2回関西支部グライダー競技大会(高松飛行場)開催。安田晃次(4年)、亘理一省(4年)が出場。2位：安田晃次(4年) 滞空42分18秒の記録を樹立。
1956年	昭和31年	3月14日	日本初の学生グライダー長距離曳航飛行、徳島～高松 100km に成功。安田晃次(4年)：徳島⇒高松、北尾直敬(同志社)：高松⇒徳島、亘理一省(4年)：徳島⇒高松。
		4月	自家用操縦士滑空機(中級)、浅田悌一郎(3年)合格。
		8月24日	第6回全日本学生グライダー競技選手権大会が、霧ヶ峰滑空場において開催(～8月26日)され、1部に安田晃次(4年)・塩塚幸雄(4年)、2部に浅田悌一郎(3年)が出場。 2位：塩塚幸雄(4年)
1957年	昭和32年	1月	第1回関学航空部 OB総会 開催。初代会長に 合田福太郎氏就任。
		1月	日本学生航空連盟関西支部、学生副委員長に浅田悌一郎(3年)が就任。
		5月	購入機体を複座セコンダリー 萩原式H-22B型に決定。学院より35万円借入れ(5年均等返済)、10万円の購入補助決定。
		7月	自家用操縦士滑空機(中級)、喜多良夫(3年)合格。
		7月	曳航用自動車、キャデラック(41年式)を10万円で購入。
		8月23日	第7回全国学生グライダー競技選手権大会が、八尾飛行場において開催され、2部に浅田悌一郎(4年)、3部に喜多良夫(3年)が出場。 3位：浅田悌一郎(4年)
		10月	関西各校に先駆け、複座セコンダリー購入。JA0144 萩原式H-22B型。10月20日、八尾飛行場に到着。
		11月3日	八尾飛行場にて新月号(JA0144)進空式。正田部長、森重・安田・亘理・塩塚等のOBが出席。初自動車直接曳航。
		12月1日	八尾飛行場にて「新月号」(JA0145)命名式。
1958年	昭和33年	1月	日本学生航空連盟関西支部、佐伯栄治(2年)が会計、齋藤慶文(2年)が庶務に選ばれる。
		4月12日	H-22Bで関西支部初の複座機による単独練習を行う。併せて新入生の体験滑空も。 学連の合宿では、1回生はプライマリーの練習だが、関学単独の練習ではセコンダリーによる自動車曳航を行い、関西の他校に比較して技術は急上昇。 1代目の曳航車がリタイヤしたため、クライスラーのマーキュリーを購入(7万円)。
		5月3日	自家用操縦士滑空機(中級)、杉山良彦(4年)合格。
		7月31日	自家用操縦士滑空機(中級)、赤尾善良(3年)、佐伯栄治(3年)、齋藤慶文(3年)合格。
		8月24日	第8回全国学生グライダー競技選手権大会が、小倉曾根飛行場にて開催され、2部に喜多良夫(4年)、3部に杉山良彦(4年)、赤尾善良(3年)、佐伯栄治(3年)、齋藤慶文(3年)が出場。 3部 1位：赤尾善良。
1959年	昭和34年	7月	日本学生航空連盟関西支部、佐伯栄治(4年)が会計、垂水浩(3年)が庶務に選ばれる。
		11月1日	第9回全日本学生グライダー競技選手権大会が、八尾飛行場にて開催され、1部に齋藤慶文(4年)、2部に佐伯栄治(4年)、赤尾善良(4年)が出場。
1960年	昭和35年	3月4日	日本学生航空連盟関西支部、垂水浩(3年)が学生委員長、河野哲也(2年)が庶務に選ばれる。
		9月28日	第10回全日本学生グライダー競技選手権大会が、八尾飛行場にて開催され、1部に権藤康博(4年)、垂水浩(4年)が出場。 3位：垂水浩。
1961年	昭和36年	4月	日本学生航空連盟関西支部、木津谷文吾(4年)が会計、岡本孟(3年)が方向舵委員に選ばれる。
		9月11日	第11回全日本学生グライダー競技選手権 関西・東海支部予選が、八尾飛行場にて開催され、1部1位：河野哲也(4年)、2位：木津谷文吾(4年)、2部5位：加藤昌紀(3年)、6位：藤田順吉、8位：岡本孟(3年)。
		10月22日	第11回全日本学生グライダー競技選手権大会中止。第2室戸台風により八尾飛行場の宿舎・機材・施設が大被害をこうむり開催不能。
1962年	昭和37年	1月9日	第2回滑空記録会。河野哲也(4年)が参加。
		6月12日	中野雅司(2年)が学連第1期飛行機操縦訓練生(総勢12名)に選ばれる。
		8月30日	第12回全日本学生グライダー競技選手権 関西・東海支部予選が、八尾飛行場にて開催され、1部に岡本孟(4年)が出場、2位。
		11月11日	第12回全日本学生グライダー競技選手権大会が、八尾飛行場にて開催され、1部に岡本孟(4年)が出場。
1963年	昭和38年	2月28日	河野哲也(OB)が、八尾飛行場にて5時間19分の滞空。
		5月29日	飛行機班自家用操縦士実地試験。中野雅司(3年)を含む9名合格。学連、戦後初の自家用飛行機操縦士。
		8月2日	第13回全日本学生グライダー競技選手権 関西・東海支部予選が、八尾飛行場にて開催され、1部に辰馬勝(4年)が出場、5位。
1964年	昭和39年		関学 C316型ウインチ完成(製作期間：2か月半、予算：10万円、関西大学・慶応大学・法政大学より提供の資料を基に作成)。
		2月	兵庫県 鷺野飛行場で関学合宿。
		3月25日	富山空港・鳥取空港で学連合宿開始。

1964年	昭和三十九年	6月	関学 第1回鳥取合宿。
		8月	第14回全日本学生グライダー競技選手権 関西・東海支部予選が、八尾飛行場にて開催され、1部に中川一彦(4年)、2部に水谷千尋(4年)が出場、中川一彦が優勝、水谷千尋が4位。
		9月13日	第14回全日本学生グライダー競技選手権大会が、小倉空港にて開催(～14日)され、1部に中川一彦(4年)、2部に水谷千尋(4年)が出場、中川一彦が5位、水谷千尋が3位。
1965年	昭和40年	3月28日	学連創立35周年および「飛行機操縦訓練班第1期生」卒業記念に学連機3機で日本一周飛行(4,800km)。中野雅司(4年)東回り2番機に搭乗。
		12月	新規購入機、Bocian(ポーランド製、複座ソアラ：230万円)に決定。大学より援助金：60万円、大学より貸付金：60万円、現役アルバイト：46万円、OB寄付金：34万円。
		12月12日	学連飛行機班第4期生7名、訓練開始。山本望東夫(1年)が参加。
1966年	昭和41年	1月	日本学生航空連盟関西支部、有賀成信(3年)が学生委員長に選ばれる。
		1月	Bocian 発注。
		11月	岡山空港にて、藤江英毅(4年)、有賀成信(4年)国際滑空記章2科目達成、藤江：獲得高度 1,048m、滞空時間 5+06。有賀：獲得高度 1,325m、滞空時間 5+18。
1967年	昭和42年	3月8日	岡山空港にて、畝山淳史(3年)、国際銀賞科目達成、獲得高度 1,120m。
		3月10日	第1回関関対抗グライダー競技会が岡山飛行場で開催、第1部：滞空時間・獲得高度、第2部：基本操作。関学圧倒的勝利。
		5月2日	Bocian 耐空検査。
		7月28日	Bocian 命名式、試乗会。八尾空港。
		8月21日	河野哲也(OB)が、関学初の事業用操縦士(滑空機)取得。
		11月20日	第17回全日本学生グライダー競技選手権大会が、妻沼滑空場にて開催(～27日)され、科目が滑翔競技となる。全種目競技に森本泰之(4年)、指定目的地往復速度競技に斎藤太紀雄(3年)が出場。
1968年	昭和43年	3月8日	第2回関関対抗グライダー競技会が岡山飛行場で開催、競技種目は滞空時間競技・獲得高度競技・三角コース速度競技。1位：大島正旭(関大)、2位：杉本 守(3年)、3位：三原憲二(3年)。
		6月	初代監督に垂水 浩(1961年卒)が就任。
		6月22日	鳥取空港で、Bocian 自動車曳航中に高度50mで索切れ、松林に墜落、機種を大破。前席：2か月の重傷、後席：1週間の軽傷。
		12月15日	第18回全日本学生グライダー競技選手権大会が、妻沼滑空場にて開催(～21日)され、選手権競技種目に杉本 守(4年)が出場し、17位。
1969年	昭和44年	11月	H-23B「月星号」50万円で購入。霧ヶ峰滑空場へ引き取りに行く。
		12月14日	第19回全日本学生グライダー競技選手権大会が、妻沼滑空場にて開催(～20日)され、選手権競技種目に北野裕也(4年)が出場し、21位。
1970年	昭和45年	1月	日本学生航空連盟関西支部、西田利博(3年)が学生副委員長に選ばれる。
		1月12日	鶉野飛行場にて、H-23B「月星号」(JA2036)進入時、横風突風のため場外に墜落、搭乗者は無事。
		10月16日	日本学生航空連盟 初の指導員研修会が妻沼滑空場で開催され、杉本 守が参加。
1971年	昭和46年	3月14日	第20回全日本学生グライダー競技選手権大会が、妻沼滑空場にて開催(～20日)され、選手権競技種目に濱田博夫(4年)、西田利博(4年)が出場。気象条件から、開催時期を年末から3月に変更。初の距離種目採用。
		4月20日	加古川滑空場オープン。
		6月	第2代監督に有賀成信(1967年卒)が就任。
		8月	新規機体：Alexander Schleicher式 K8Bを発注。
		12月16日	妻沼第2滑空場にて関学大合宿(東京理科大合宿に参加 ～21日)。
1972年	昭和47年	1月5日	Alexander Schleicher式 K8B、八尾飛行場到着。
			ウインチ製作(関学第2号)。
		3月12日	第21回全日本学生グライダー競技選手権大会が、妻沼滑空場にて開催(～18日)され、選手権競技種目に田中一以(4年)がK8Bで出場。
		4月29日	中央図書館西にて、新鋭機：K8Bの命名式。「新月III世」と命名。
	11月14日	吉井川邑久滑空場にて関学合宿(加古川滑空場の使用はなくなり吉井川へ移った)。	
1973年	昭和48年	3月16日	第22回全日本学生グライダー競技選手権大会中の空中接触事故により大会中止。なお以降10年間全国大会は中止となる。
		7月16日	関宿滑空場にて関学大合宿(東京理科大合宿に参加 ～24日)。
1974年	昭和49年	11月1日	木曾川訓練所開所式。
1975年	昭和50年	7月・8月	関学初の海外遠征。前田 亨(院)、小森嘉之(4年)、松岡信吾(3年)、前田義之(3年)、山崎善博(2年)がエル・ミラージ(カリフォルニア)へ。小森が国際銀賞、前田 亨、山崎が銀賞科目、前田義之、松岡が獲得高度達成。
1976年	昭和51年	1月	日本学生航空連盟関西支部、宮 治彦(3年)が学生委員長に選ばれる。
		2月27日	第1回関西学生グライダー競技会、吉井川邑久滑空場にて開催(～29日)される。宮 治彦(3年)、山崎善博(2年)出場。同乗飛行による基本操作を採点、2日目・3日目は雨のため、1日目の1Rの成績で順位が決まった。
		5月27日	吉井川滑空場にて神戸大学合宿中に事故。1人死亡・1人重傷。
1977年	昭和52年	2月20日	吉井川滑空場は、事故以来使用不可能となり、東海支部の木曾川滑空場で訓練を行っているが、早急に関西の滑空場を確保しなければならない状況。(第19回中央学生委員会)
		2月26日	第2回関西学生グライダー競技会、木曾川滑空場にて開催(～3月7日)される。1部：山崎善博(3年)、金森政興(3年)、2部：佐藤啓輝(2年)が出場。1部：団体3位、2部：団体3位、個人2位。
		3月26日	第1回関西学院大学・東京理科大学対抗グライダー競技会、関宿滑空場にて開催(～28日)。団体 総合優勝：東京理科大、1部優勝：東京理科大、2部優勝：関西学院大学。 個人 1部 目的地往復賞 山崎善博：2位、滞空時間賞 前田義之：2位、獲得高度賞 前田義之：2位、2部 佐藤啓輝：3位。
		3月	学連主催春季整備講習会(学科：朝日新聞大阪本社、実技：八尾訓練所)が開催され、山本良彦(1年)、堤 啓之(1年)が学科を受講。
1978年	昭和53年	3月17日	第3回関西学生グライダー競技会、木曾川滑空場にて開催(～3月21日)される。1部：団体2位、個人 山崎善博(4年)2位、2部：団体1位、個人 山本良彦(2年)1位、堤 啓之(2年)3位。
		3月26日	第2回関西学院大学・東京理科大学対抗グライダー競技会、関宿滑空場にて開催(～30日)。1位：東京理科大、2位：関西学院大学。
1979年	昭和54年	1月	日本学生航空連盟関西支部、山本良彦(3年)が学生副委員長に選ばれる。
		5月11日	第3回関関対抗グライダー競技大会が木曾川滑空場において、11年ぶりに総合関関戦の一環として開催され、1部は滞空時間、2部は基本操作を競った。団体2位、個人1部：堤啓之(4年)1位。

		11月1日	第4回(東海)関西学生グライダー競技会、福井空港にて開催(～11月4日)される。1部に中北史郎(3年)、2部に森憲一(2年)が出場。初めての飛行機曳航による競技会であったが、東京大と青山大の事故のため途中中止。
1980年	昭和55年	3月4日	第5回関西学生グライダー競技会、木曾川滑空場にて開催(～3月10日)される。
		5月	三田格納庫完成。
		5月	第4回関西対抗グライダー競技大会が木曾川滑空場において開催された。団体2位。
		7月1日	三田格納庫にて第1回整備合宿(～7日)。
		11月23日	日本学生航空連盟50周年記念式典(関西支部)が、大阪空港の全日空格納庫で開催され、最長老の関学OB合田福太郎氏に関西大学の松川さんから花束が贈呈された。
		12月9日	三田格納庫にて第2回整備合宿(～25日)。
1981年	昭和56年	3月	日本学生航空連盟創立50周年記念学生グライダー競技会が各支部での分散競技会という形式で開催された。
		3月21日	関西大会(～25日)は福井空港で、第1部 周回コース速度競技、第2部 滞空時間・制限地着陸競技を行い、1部に森 憲一(3年)、2部に松尾 健(3年)、木崎良隆(2年)、宇根崎彰(2年)が出場。
		5月1日	第5回関西対抗グライダー競技大会が木曾川滑空場において開催された。団体1位。
		10月18日	三田格納庫 柱補修完了。
		10月24日	第1回東海・関西学生グライダー競技会(～29日)が福井空港にて開催された。
		12月	宇根崎彰(3年)が三等航空整備士に合格。関学念願の整備士の誕生。
		12月18日	三田格納庫にて第4回整備合宿(～24日)。
1982年	昭和57年	1月26日	関学木曾川合宿(～31日)、参加人員19名(内他大学2名)。使用機体:Blanik(JA2208)、K8B(JA2136)、ASW-19(JA2258)。一人あたり15～20発。 主な記録、C賞:松尾 健(4年)、谷山拓生(4年)、木崎良隆(3年)、宇根崎彰(3年)、初K8B:安田 薫(2年)。
		2月21日	日本学生航空連盟関西支部、木崎良隆(3年)が学生委員長に選ばれる。
		3月7日	9年ぶりに全国一会場に揃っての全日本学生グライダー競技大会が妻沼滑空場において開催された(正式な全日本学生グライダー競技大会としては数えられなかった)。
		3月16日	関学関宿合宿(～25日)。使用機体:K8B(JA2136)、三田式3型改1(JA2141)、TWIN Astir Trainer(JA2238)。総発数:ウインチ曳航 132発、飛行機曳航 55発、合計 187発。 主な記録、銅賞(2時間):七俵理子(4年)、片銅賞(1時間):宇根崎彰(3年)、C賞:河島幸雄(2年)、長谷裕子(2年)、初K8B:長谷裕子(2年)、初ソロ:久保田聡(2年)、池田幸子(2年)。
		4月1日	第2代関西学院大学体育会航空部OB会会長に金子良夫氏(昭和12年卒)就任。
		4月24日	第6回関西対抗グライダー競技大会が木曾川滑空場において開催された。滞空時間・獲得高度・制限地着陸の1部のみで、団体1位、個人1位 宇根崎彰(4年)、3位 木崎良隆(4年)、4位 生駒 雅(3年)。
		7月1日	「活動報告」刊行開始。
		7月1日	三田格納庫にて第5回整備合宿(～6日)。
		8月	河島幸雄(3年)自家用操縦士(滑空機上級)実地試験合格。自家用学科試験、長谷裕子(3年)合格。
		9月	木崎良隆(4年)、宇根崎彰(4年)、生駒 雅(3年)自家用操縦士(滑空機上級)実地試験合格。
		10月24日	第2回東海・関西学生グライダー競技会が福井空港にて開催(～29日)され、宇根崎彰(4年)、生駒 雅(3年)、河島幸雄(3年)が出場。
		11月1日	「活動報告」Vol.2(三田格納庫特集)発刊。
		12月22日	耐空検査のための整備合宿(～1月7日)。三田格納庫に電話設置。
		1983年	昭和58年
3月7日	第23回全日本学生グライダー競技選手権大会(～13日)が妻沼滑空場で10年ぶりに開催された。関学は出場者なし。関西大学が10年前の事故を乗り越え、団体優勝、最長距離特別賞も獲得。		
3月27日	自家用・三整・教証学科試験。大江史晃(2年)自家用学科合格、生駒 雅(3年)・安田 薫(3年)三整学科合格、河島幸雄(3年)教証学科合格。		
3月	昨年同様、東京理科大の応援のもと関宿での合宿を計画していたが、2月から3件の事故が起り、関宿滑空場が閉鎖され(学生の合宿再開は4月中旬)、合宿は中止となった。		
5月16日	第7回関西対抗グライダー競技大会が会場を福井空港に移し開催(～23日)された。競技は、1部 三角周回速度競技(単独飛行のみ)、2部 基本及び空中応用操作。団体は1部の得点のみで決定。 戦績 団体:2位、個人:1部 3位 生駒 雅(4年)、2部 1位 長谷裕子(4年)、3位 大江史晃(3年)。		
5月27日	第1回山岳滑翔大会が久住滑空場で開催(～6月3日)され、越智基夫(4年)、河島幸雄(4年)が参加。		
7月5日	生駒 雅(4年)三等航空整備士合格。		
8月	関学木曾川合宿(8/22～27)が、8月21日に妻沼滑空場で起こった死亡事故のため中止となる。		
9月	自家用学科試験、越智基夫(4年)、土谷勝亮(3年)、金森和之(2年)合格。		
10月19日	第3回東海・関西学生グライダー競技会が福井空港にて開催(～24日)され、生駒 雅(4年)、河島幸雄(4年)が出場。周回速度競技。		
12月7日	長谷裕子(4年)、大江史晃(3年)、土谷勝亮(3年)自家用操縦士(滑空機上級)実地試験合格。		
12月15日	妻沼合宿(～21日)実現。使用機体:Blanik(JA2210 学習院大)、K8B(JA2136 関学)、Ka6CR(JA2252 竜谷大)。 関東在住のOB・OG(中野雅司、宮 治彦、畠 豊、田島秀太、松尾 健、中野玲子、木崎良隆、林 芳郎)が合宿を訪問。		
1984年	昭和59年		
		3月7日	第24回全日本学生グライダー競技選手権大会(～13日)が妻沼滑空場で開催され、関学は12年ぶりに生駒雅・河島幸雄(4年)、大江史晃・土谷勝亮(3年)がK8B(JA2136)で出場。団体:19位、個人:河島幸雄 24位。
		5月18日	第8回関西対抗グライダー競技大会が福井空港で開催(～24日)された。競技は、基本操作と指定地着陸(審判員同乗)。団体:1位、個人:1位 大江史晃(4年)、2位 佐野俊明(3年)、3位 土谷勝亮。
		5月28日	第2回山岳滑翔大会が久住滑空場で開催(～6月4日)され、土谷勝亮(4年)が参加。2発目に290mで離脱後、1,570mまで上昇、飛行時間:1時間15分。
		6月25日	安田薫(OB)三等航空整備士合格。
		8月2日	佐野俊明(3年)自家用操縦士(滑空機上級)実地試験合格。
		8月	七俵理子(OB)教育証明(滑空機)取得。

		9月	関西学院大学新学生会館完成、新部室に移転。
		10月	佐野俊明(3年)が岐阜大学木曾川合宿でC賞獲得。
		10月17日	第4回東海・関西学生グライダー競技会が福井空港にて開催(～23日)され、大江史晃・土谷勝亮(4年)が出場。団体：3位、個人：大江史晃 3位。
		10月26日	航空部OB会幹事会にて、新機体購入について協議。新機体購入計画－最終案－現役は、Grobs式Astir G102 Club IIIb に決定。
		12月22日	木曾川訓練所新宿舍完工式。
1985年	昭和60年	1月7日	新機体 "Grobs式Astir G102 Club IIIb" 命名式が中央芝生で行われ、「新月IV世」と命名された。
		3月7日	第25回全日本学生グライダー競技選手権大会(～13日) が妻沼滑空場で開催され、大江史晃・土谷勝亮(4年)、佐野俊明(3年) がAstir G102 Club IIIb(JA2319)で出場。
		3月26日	第9回関西対抗グライダー競技大会が福井空港で開催(～31日)された。競技は、三角周回速度競技(教官同乗)。団体：2位、個人：2位 吉田茂永(2年)、4位 佐野俊明(3年)、5位 金森和之(3年)、6位 中めぐみ。七俣理子(OG)の初教官フライト(前席金森)が実現。
		5月29日	第3回山岳滑翔大会が久住滑空場で開催(～6月5日)され、佐野俊明(4年)、金森和之(4年)が参加。
		9月4日	吉田茂永(3年) 自家用操縦士(滑空機上級)実地試験合格。
		10月15日	第5回東海・関西学生グライダー競技会が福井空港にて開催(～21日)され、佐野俊明(4年)、吉田茂永(3年)が出場。団体：1位、個人：吉田茂永 1位。
1986年	昭和61年	1月3日	専門技術協議会研修会が木曾川滑空場で開催され、七俣理子(OG)が参加。
		1月30日	関学木曾川合宿(～2月6日)。参加：20人、使用機体：ASK13(JA2256 同志社)、K8B(JA2136 関学)、Astir G102 Club IIIb(JA2319 関学)。 成果：K8B、Astir G103 Club IIIbの交互発航が実現し、初ソロ・初単座等、全員目標達成。総発航回数 242発 内ソロ 94発。
		3月6日	第26回全日本学生グライダー競技選手権大会(～12日) が妻沼滑空場で開催され、吉田茂永(3年)がAstir G102 Club IIIb(JA2319)で単独出場。
		3月25日	第10回関西対抗グライダー競技大会が福井空港で開催(～30日)された。団体：1位、個人：1位 吉田茂永(3年)。
		5月25日	第4回山岳滑翔大会が久住滑空場で開催(～5月31日)され、吉田茂永(4年)、重岡友次(4年)が参加。
		7月28日	5月12日から三等航空整備士の指導の下、学生で行っていたK8B(JA2136)のオーバーホールが完了し試験飛行。
		8月12日	吉田茂永(4年) が教育証明(滑空機)実地試験合格、学生教官誕生。
		9月3日	松尾達也(3年)、種子島隆勇(3年)が自家用操縦士(滑空機上級)実地試験合格。
		10月20日	第6回東海・関西学生グライダー競技会が福井空港にて開催(～27日)され、吉田茂永(4年)、重岡友次(4年)、松尾達也(3年)、種子島隆勇(3年)が参加。
1987年	昭和62年	1月26日	重岡友次(4年)が自家用操縦士(滑空機上級)実地試験合格。
		3月5日	第27回全日本学生グライダー競技選手権大会(～12日) が妻沼滑空場で開催され、吉田茂永(4年)がAstir G102 Club IIIb(JA2319)で大阪工大との合同チームとして出場。
		3月19日	第11回関西対抗グライダー競技大会が福井空港で開催(～24日)されたが、初の競技不成立。
		8月17日	霧ヶ峰山岳滑翔講習会(～22日)に西 文彦(3年)が参加。
		8月23日	福井空港で行われた全国研修(～28日)に若尾 準(2年)、嶋田英男(1年)が参加。
		9月4日	西文彦(3年) 自家用操縦士(滑空機上級)実地試験合格。
		11月19日	第2回東海・関西学生グライダー新人競技会が木曾川滑空場にて開催(～24日)され、木村展生(2年)、脇野信直(2年)が出場。団体：3位、個人：木村展生(2年) 5位。
		12月15日	松田葉子(3年)三等航空整備士合格。
1988年	昭和63年	3月5日	第28回全日本学生グライダー競技選手権大会(～12日) が妻沼滑空場で開催され、松尾達也(4年)、種子島隆勇(4年)がAstir G102 Club IIIb(JA2319)で出場。
		3月18日	第12回関西対抗グライダー競技大会が福井空港で開催(～22日)されたが、競技不成立。
		5月12日	第6回山岳滑翔大会が久住滑空場で開催(～16日)され、制限時間内獲得高度競技を行い、若尾 準(3年)が出場し4位。
		11月21日	若尾準(3年)、本郷剛(3年)が自家用操縦士(滑空機上級)実地試験合格。
		11月23日	第3回東海・関西学生グライダー新人競技会が木曾川滑空場にて開催(～28日)され、嶋田英男(2年)が出場。団体：3位、個人：7位。
1989年	昭和64年 /平成元年	1月	日本学生航空連盟関西支部、嶋田英男(3年)が学生委員長に選ばれる。
		3月16日	第13回関西対抗グライダー競技大会が福井空港で開催(～22日)され、関学大勝利。
		4月1日	36年間にわたり航空部長を務めていただいた正田啓造部長が勇退、総監督に就任。第2代部長に内田政秀教授が就任。
		5月14日	正田部長勇退 感謝パーティーが、大阪全日空ホテルにOB・OG、現役約60人が集まり盛大に催された。
		8月20日	霧ヶ峰山岳滑翔大会(～25日)に嶋田英男(3年)、山田晶子(1年)が参加。
		10月	木村展生(4年)がダイヤモンド距離(300kmタスク)達成。
		10月27日	第9回東海・関西学生グライダー競技会が福井空港にて開催(～11月1日)され、団体：3位、個人：木村展生(4年) 3位。
1990年	平成2年	2月9日	久保康之(3年)三等航空整備士合格。
		3月4日	第30回全日本学生グライダー競技選手権大会(～11日) が妻沼滑空場で開催され、木村展生(4年)、若尾 準(4年)が出場。団体：13位、個人：木村展生(4年) 23位。
		3月17日	第14回関西対抗グライダー競技大会が福井空港で開催(～23日)され、団体：2位、獲得高度章：永井完治(2年)、滞空時間賞：永井完治。
		5月17日	第8回山岳滑翔大会が久住滑空場で開催(～23日)され、制限時間内獲得高度競技を行い、山田晶子(2年)が出場し41位。
		10月24日	第10回東海・関西学生グライダー競技会が福井空港にて開催(～29日)され、嶋田英男(4年)、永井完治(3年)が出場し、団体：6位。
		11月21日	第5回東海・関西学生グライダー新人競技会が木曾川滑空場にて開催(～26日)され、伊藤仁志(2年)、平原 愛(2年)が出場。
		1月27日	関学木曾川合宿(～2月1日)。使用機体：ASK-13×2機、K8B、Astir G102 Club IIIb。嶋田英男がAstir G102 Club IIIbで101分滞空。

1991年	平成3年	3月3日	第31回全日本学生グライダー競技選手権大会(～10日)が妻沼滑空場で開催され、嶋田英男(4年)、永井完治(3年)が出場。団体：14位、個人：嶋田英男(4年) 20位。
		3月	第15回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催され、団体：1位、個人：永井完治(3年) 1位、嶋田英男(4年) 2位、今西善宣(2年) 5位、伊藤仁志(2年) 6位、山田晶子(2年)6位。 獲得高度章：永井完治(3年)、滞空時間賞：嶋田英男(4年)。
		5月17日	第9回山岳滑翔大会が久住滑空場で開催(～23日)され、制限時間内獲得高度競技を行い、今西善宣(3年) 17位、竹内寿史(2年) 30位。
		11月21日	第6回東海・関西学生グライダー新人競技会が木曾川滑空場にて開催(～26日)され、新田隆史(2年)、吉武豪則(1年)が出場。団体：1位、個人：新田隆史(2年) 1位。
1992年	平成4年	2月16日	伊藤仁志(3年) 自家用操縦士(滑空機上級)指定養成 第35期終了。
		3月21日	第16回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催(～27日)され、団体：1位、個人：伊藤仁志(3年)1位、山田晶子(3年)3位、今西善宣(3年) 5位、伊藤太一(3年) 6位、吉村俊英(3年) 6位。 獲得高度章：伊藤仁志(3年)、滞空時間賞：伊藤仁志(3年)。
		5月17日	第10回山岳滑翔大会が久住滑空場で開催(～23日)され、①制限時間内獲得高度競技、②滞空時間、指定地着陸競技が行われた。村上栄一(2年)、山下景太(2年) が出場。
		6月	日本学生航空連盟関西支部、新田隆史(3年)が学生委員長に選ばれる。
		8月24日	新田隆史(3年)が自家用操縦士(滑空機)実地試験合格。
		10月25日	第12回東海・関西学生グライダー競技会が福井空港にて開催(～30日)され、今西善宣(4年)、伊藤仁志(4年)、新田隆史(3年)出場し、団体：3位、個人：今西善宣(4年) 2位。 この戦績にもかかわらず、この年から行われることとなった「全国大会選考会」で惜しくも1点差で全国大会を逃す。
		11月20日	第7回東海・関西学生グライダー新人競技会が木曾川滑空場にて開催(～25日)され、村上栄一(2年)、山下景太(2年) が出場。団体：6位、個人：村上栄一 7位、山下景太 13位。
1993年	平成5年	3月20日	第17回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催(～26日)され、団体：1位、個人：新田隆史(3年) 1位、山下景太(2年) 4位、村上栄一(2年) 6位、沢田拓也(2年) 7位。
		4月1日	第3代航空部部长に永田彰三先生が就任。
		5月19日	第11回山岳滑翔大会が久住滑空場で開催(～23日)され、①制限時間内獲得高度競技、②山岳滑翔記録会が行われた。桂 涼子(2年) 7位、増田憲治(2年) 26位、伊藤綾美(2年) 40位。
		8月20日	日独航空学生交流に新田隆史(4年)が選ばれ、早稲田大学の山本圭とともにドイツへ出発(9月2日帰国)。
		8月～9月	関学大航空部海外遠征。新田隆史(4年)、山下景太(3年)、村上栄一(3年)、沢田拓也(3年)が、アリゾナ州 エストレラ滑空場へ。村上栄一(3年)ライセンス取得。
		10月23日	第13回東海・関西学生グライダー競技会が福井空港にて開催(～31日)された。全国大会出場権取れず。
		11月20日	第8回東海・関西学生グライダー新人競技会が木曾川滑空場にて開催(～25日)され、増田憲治(2年)、伊藤綾美(2年) が出場。団体：3位、個人：増田憲治 2位。
		12月6日	新田隆史(4年)が教育証明(滑空機)実地試験合格、学生教官誕生。
1994年	平成6年	3月20日	第18回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催(～26日)され、団体：1位、個人：新田隆史(4年) 1位、山下景太(3年) 3位、山田宗孝(4年)4位、沢田拓也(3年) 6位。
		4月15日	航空部OB会親睦会：沖縄旅行(～17日)に27名参加。沖縄万座ビーチ社長の安田OB、全日空の河野OBのご協力により実現。
		5月18日	第12回山岳滑翔大会が久住滑空場で開催(～23日)され、①制限時間内獲得高度競技、②山岳滑翔記録会が行われた。緒方斉子(2年) 459点、田中麻由子(2年) 114点。
		6月	第3代監督に齋藤慶文(1960年卒)が就任。
		8月21日	霧ヶ峰山岳滑翔会(～26日)に小林貴大(1年)、景山淳史(1年)が参加。
		10月21日	第14回東海・関西学生グライダー競技会が福井空港にて開催(～30日)され、山下景太(4年)、村上栄一(4年)、沢田拓也(4年) が出場。団体：3位、個人：山下景太 9位、村上栄一 10位、沢田拓也 23位。
		11月20日	第9回東海・関西学生グライダー新人競技会が木曾川滑空場にて開催(～25日)され、緒方斉子(2年)、景山淳史(1年) が出場。個人：緒方斉子 13位、景山淳史 30位。
		12月	桂 涼子(3年) オーストラリア ワイケリーにて銀賞達成。
1995年	平成7年	1月21日	伊藤綾美(3年)がオーストラリア ベネラへ遠征(～30日)。
		3月4日	第35回全日本学生グライダー競技選手権大会(～12日)が妻沼滑空場で開催され、山下景太(4年)、村上栄一(4年)、沢田拓也(4年) が出場。団体：18位、個人：沢田拓也 29位、山下景太 30位、村上栄一 41位、。
		3月19日	第19回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催(～25日)され、団体：2位、個人：村上栄一(4年) 1位、中島直人(3年) 3位、伊藤綾美(3年) 5位、沢田拓也(4年) 8位、桂 涼子(3年) 10位。獲得高度章：中島直人(3年)。
		5月17日	第13回山岳滑翔大会が久住滑空場で開催(～23日)され、①制限時間内獲得高度競技、②山岳滑翔記録会が行われた。谷田 誠(2年) 15位、小林貴大(2年) 23位、谷田 誠(2年) 15位、林 真規子(2年) 26位。
		8月	関学大航空部海外遠征。中島直人(4年)、景山淳史(2年)が、アリゾナ州 エストレラ滑空場へ。自家用操縦士ライセンス取得。
		8月	谷田 誠(2年) 初ソロ。
		9月23日	空の日。エアポート・フェスティバル(大阪国際空港)に関学大グライダー展示。
		10月22日	第15回東海・関西学生グライダー競技会が福井空港にて開催(～29日)され、増田憲治(4年)、中島直人(4年)、伊藤綾美(4年) が出場。団体：5位、個人：増田憲治 7位。
		11月20日	第10回東海・関西学生グライダー新人競技会が木曾川滑空場にて開催(～25日)され、林 真規子(2年)、景山淳史(2年) が出場。団体：2位、個人：林 真規子 1位。
		12月	妻沼滑空場において全国大会強化合宿が行われ、増田憲治(4年)、中島直人(4年)、伊藤綾美(4年)、小林貴大(2年)が参加。
1996年	平成8年	1月23日	関学木曾川合宿(～28日)。小林貴大(2年) 初単座 K8B。
		2月	関学大航空部海外遠征。増田憲治(4年)、中島直人(4年)、小林貴大(2年)、谷田 誠(2年)、林 真規子(2年) が、オーストラリア キンガロイへ。
		3月2日	第35回全日本学生グライダー競技選手権大会(～10日)が妻沼滑空場で開催され、増田憲治(4年)、中島直人(4年)、伊藤綾美(4年) が出場。団体：14位。
		3月18日	第20回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催(～22日)され、団体：1位、個人：増田憲治(4年) 2位、伊藤綾美(4年) 3位、中島直人(4年) 5位、景山淳史(2年) 8位。
		3月23日	関関航空部OB会、OB体験飛行会(～24日)開催。
		4月	K8Bオーバーホールのため、大利根滑空場まで陸送。
		5月	北海道・滝川遠征。関学からは、小林貴大(3年)、谷田 誠(3年)、林 真規子(3年)が参加。
		5月14日	第14回山岳滑翔大会が久住滑空場で開催(～20日)され、①制限時間内獲得高度競技、②山岳滑翔記録会が行われた。齋藤憲実(2年) 879点、益田陽子(2年) 352点、松本明経(2年) 265点。
		8月	滝川にて、関学・関大・大阪府大合同合宿を行う。
		10月21日	第16回東海・関西学生グライダー競技会が福井空港にて開催(～28日)され、小林貴大(3年)、谷田 誠(3年)、林 真規子(3年)、景山淳史(3年) が出場。団体：8位、個人：谷田 誠 10位。

		11月20日	第11回東海・関西学生グライダー新人競技会が木曾川滑空場にて開催（～25日）され、齋藤恵実(2年)、益田陽子(2年) が出場。
1997年	平成9年	3月16日	第21回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催(～22日)され、団体：2位、個人：小林貴大(3年) 2位。
		3月	関学大航空部海外遠征。原田隆洋(1年)、寺田友暢(1年) が、オーストラリア ナロマインへ。
		5月17日	第15回山岳滑翔大会が久住滑空場で開催（～23日）され、①制限時間内獲得高度競技、②基本滑翔競技が行われた。原田隆洋、寺田友暢、関 康仁、外山裕二（全員2年）が出場、原田隆洋が基本滑翔競技：3位。
		8月17日	霧ヶ峰山岳滑翔会（～22日）に寺田友暢(2年)が参加。
		10月21日	第17回東海・関西学生グライダー競技会が福井空港にて開催（～28日）され、小林貴大(3年)、谷田 誠(3年)、林 真規子(3年) が出場。団体：9位、個人：谷田 誠 11位。
		11月19日	第12回東海・関西学生グライダー新人競技会が木曾川滑空場にて開催（～25日）され、原田隆洋(2年)、寺田友暢(2年) が出場。団体：3位、個人：原田隆洋 4位、寺田友暢 14位。
1998年	平成10年	3月20日	第22回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催(～25)され、団体：2位。
		3月28日	七俵理子コーチ 獲得高度：5,000m 達成。アメリカ ミンデン・タホ飛行場。
		5月17日	第16回山岳滑翔大会が久住滑空場で開催（～23日）され、①制限時間内獲得高度競技、②記録滑翔競技が行われた。衛藤遥歩(2年) 22位、後藤裕子(2年) 32位。
		10月21日	第18回東海・関西学生グライダー競技会が福井空港にて開催（～28日）され、松本明経(4年) が出場。団体：3位相当、全日本選手権の出場権を得る。
		11月19日	第1回全日本学生グライダー新人競技大会が木曾川滑空場で開催される。昨年までの東海・関西グライダー新人競技会が、新たに全国大会としてスタート。衛藤遥歩(2年)、田村 崇(2年) が出場。
1999年	平成11年	3月6日	第39回全日本学生グライダー競技選手権大会(～14日) が妻沼滑空場で開催され、松本明経(4年) が出場。
		3月	関関対抗グライダー競技大会中止（関西大学学生のオーストラリアでの事故のため）。関関合同合宿となる。
		5月17日	第16回山岳滑翔大会が久住滑空場で開催（～23日）され、①制限時間内獲得高度競技、②記録滑翔競技が行われた。松川卓也(2年) 25位、森 得益(2年) 28位。
		8月23日	霧ヶ峰山岳滑翔会（～27日）に衛藤遥歩(3年)が実行委員として参加。
		11月19日	第2回全日本学生グライダー新人競技大会が木曾川滑空場で開催（～25日）される。松川卓也(2年)、根来公平(2年) が出場。
		12月	日本学生航空連盟関西支部、衛藤遥歩(3年)が学生副委員長に選ばれる。
2000年	平成12年	3月18日	第23回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催（23日）され、団体：2位。個人：寺田友暢(4年) 3位、獲得高度章：原田隆洋(4年)、滞空時間賞：原田隆洋。
		6月2日	【関西学院航空部創設70周年】
		7月	関学航空部OB会幹事会。70周年記念行事案（「記念式典」、「記念誌」、「その他記念行事として何ができるかー特に機体購入について」）協議。
		9月	「70周年記念誌」第1回編集会議、委員と分担決定。
		10月17日	第20回東海・関西学生グライダー競技会が福井空港にて開催（～24日）され、衛藤遥歩(4年) が出場。団体：10位、個人：8位。
		11月	「70周年記念誌」第2回編集会議、記念誌に歴史的な流れを挿入することが決定。
		11月21日	第3回全日本学生グライダー新人競技大会が木曾川滑空場で開催（～26日）される。山本直毅(2年) 30位、石堂麻紀(2年) 40位。
2001年	平成13年	1月	関学木曾川合宿。衛藤遥歩(4年) 初AstirIIIb。
		3月15日	第24回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催（～21日）され、団体：1位、個人：衛藤遥歩(4年) 1位、松本 篤(3年) 5位。獲得高度章：田村 崇(4年)。
		8月27日	霧ヶ峰山岳滑翔会（～31日）に田代季実子(2年)が参加、また学生委員で石堂麻紀(3年)が参加。
		10月14日	第21回東海・関西学生グライダー競技会が福井空港にて開催（～21日）され、団体：2位、個人：松川卓也(4年) 4位。
		11月18日	第4回全日本学生グライダー新人競技大会が木曾川滑空場で開催（～24日）される。田代季実子(2年)、涌嶋 満(2年) が出場。。
2002年	平成14年	3月16日	第25回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催（～20日）され、団体：2位、個人：松本 篤(4年)、滞空時間章：松本 篤。
		9月30日	第5回全日本学生グライダー新人競技大会が木曾川滑空場で開催（～10月6日）される。木下優子(2年)、森本裕子(2年) が出場。。
2003年	平成15年	3月17日	第26回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催（～21日）され、団体：2位、個人：重政憲作(3年) 2位。
		9月	重政憲作(4年) 9が自家用操縦士（滑空機上級）実地試験合格。
		10月4日	第6回全日本学生グライダー新人競技大会が木曾川滑空場で開催（～10月10日）される。隅 杏那(2年)、風岡由美子(2年) が出場。。
		11月10日	第1回関関同立対抗グライダー競技会が木曾川滑空場で開催（～13日）され、団体：4位。重政憲作(4年) が滞空時間賞を獲得。 クルーで参加した木下優子(3年)が初ソロ。
		11月15日	第23回東海・関西学生グライダー競技会が木曾川滑空場にて開催（～22日）され、個人：重政憲作(4年) 7位。
2004年	平成16年	1月	関学木曾川合宿。隅 杏那(2年)が初ソロ、セカンドソロ。
		3月19日	第27回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催（～23日）され、団体：2位、個人：重政憲作(4年) 3位。
		5月16日	第22回山岳滑翔大会が久住滑空場で開催（～21日）され、佐崎健太郎(2年)が参加。
		6月6日	関学・京大木曾川合宿（～13日）。朝山正博(2年)初ソロ。
		8月4日	関学・神大福井合宿（～8日）。朝山正博(2年)初ATソロ。
		9月13日	関学・愛工・平安女子・福井大木曾川合宿（～18日）。貴田健太郎(2年)初ソロ。
		10月2日	第7回全日本学生グライダー新人競技大会が木曾川滑空場で開催（～8日）される。団体：6位、個人：朝山正博(2年) 8位、貴田健太郎(2年) 18位。
		11月6日	第2回関関同立対抗グライダー競技会が木曾川滑空場で開催（～12日）され、団体：3位。
2005年	平成17年	1月29日	関学・愛学木曾川合宿（～2月8日）。風岡由美子(3年)初ソロ。 隅 杏那(3年)、朝山正博(2年) 初AstirIIIb。
		2月	朝山正博(2年)、佐崎健太郎(2年)がアメリカ・ミンデン遠征。朝山正博 自家用操縦士ライセンス取得。
		3月17日	第28回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催（～21日）され、団体：2位、個人：貴田健太郎(2年) 3位。
		5月14日	関学大野合宿（～15日）。朝山正博(3年) PW5 搭乗。
		8月26日	関学・神大・愛工木曾川合宿（～」31日）。貴田健太郎(3年)が、初ASK21ソロ、初ASK-23ソロ。

		11月4日	関関同立戦は、久住・妻沼の事故の影響で、関関同立合同合宿（～11日）に。
		11月12日	第25回東海・関西学生グライダー競技会が木曽川滑空場にて開催（～19日）され、朝山正博(3年)が京大との合同チームで出場。全国大会の出場権獲得ならず。
2006年	平成18年	3月17日	第29回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催（～21日）されたが、天候が悪く不成立。
2007年	平成19年	3月17日	第30回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催（～21日）され、団体：2位、個人：仲井雄太(3年)、朝山正博(4年) 3位。
		8月25日	関学・大工・名工・府大木曽川合宿（～30日）。福川大賀(3年)初ソロ・2ndソロ、飯田 基(2年)、浅野太郎(2年)2ndソロ。
		9月15日	指導員合宿（～17日）で、ダイニーマ索テスト使用。
		11月2日	第4回関関同立対抗グライダー競技会が木曽川滑空場で開催（～9日）され、団体：3位。
		11月30日	妻沼滑空場で行われたトレセン（～12月3日）に浅野太郎(2年)、高橋良典(1年)が参加。
		12月17日	関大合宿にて、福田緑子(2年)が初ソロ。
2008年	平成20年	3月15日	第31回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催（～20日）され、団体：1位、個人：浅野太郎(2年) 1位。クルーフライトで、中井雄太(4年)、飯田 基(2年)初ATソロ。
		5月13日	七俵理子教官、ご逝去。
		5月24日	関学・同志社木曽川合宿（～30日）。浅野太郎(3年)がAstir(JA2319)でフライト。Astir(JA2319)が飛ぶのは1年2か月ぶり。
		6月21日	ハウストレーラー（ドイツ・スピンドルパーガー社 コプラトレラー：255万円）導入。牽引のため2007年12月にトヨタ・レジアス購入（74万円）。
		9月	浅野太郎(3年)が自家用操縦士ライセンス取得。
		10月12日	第11回全日本学生グライダー新人競技大会が木曽川滑空場で開催（～18日）される。団体：11位、個人：高橋良典(2年) 22位、棚橋 亮(2年) 27位。
		10月29日	上ヶ原キャンパスにおいて、ハウストレーラー引き渡し式が行われた。ルース・M・グルーベール院長、阿部洋夫学生部課長、森本泰樹学生部主幹が出席。
		11月1日	第5回関関同立対抗グライダー競技会が木曽川滑空場で開催（～7日）され、団体：4位。クルーフライトで棚橋 亮(2年)が初ソロ。
		11月9日	第28回東海・関西学生グライダー競技会が木曽川滑空場にて開催（～16日）され、浅野太郎(3年)が大工大との合同チームで出場。団体：7位で全国大会出場権獲得。
		12月4日	妻沼滑空場で行われたトレセン（～7日）に浅野太郎(3年)、飯田 基(3年)、福田緑子(3年)、高橋良典(2年)、中島佳祐（1年）が参加。
2009年	平成21年	1月	谷口大樹(2年)が交換留学中にフロリダで自家用操縦士ライセンス取得。
		1月30日	大野滑空場にて関学単独合宿（～2月2日）。高橋良典(2年)が初単座。
		2月	飯田 基(3年)が自家用操縦士ライセンス取得。
		3月7日	第49回全日本学生グライダー競技選手権大会（～15日）が妻沼滑空場で開催され、浅野太郎(3年)が大工大との合同チーム（機体は大工AstirCS77）で出場。個人：浅野太郎 19位。
		3月18日	第32回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催（～21日）され、団体：2位、個人：高橋良典(2年) 1位。
		5月30日	（関学）・関大・同志社木曽川合宿（～31日）。中島佳祐（2年）初ソロ。
		8月	増田有一郎(1年)がフロリダでライセンス取得。
		10月31日	第6回関関同立対抗グライダー競技会が木曽川滑空場で開催（～11月6日）され、団体：3位。個人：浅野太郎(4年) 5位。
		11月7日	第29回東海・関西学生グライダー競技会が木曽川滑空場にて開催（～15日）され、浅野太郎(4年)が関学単独チームで出場。団体：5位で全国大会出場権獲得。個人：浅野太郎 3位。
		11月	高橋良典(3年)が自家用操縦士ライセンス取得。
2010年	平成22年	3月6日	第50回全日本学生グライダー競技選手権大会（～14日）が妻沼滑空場で開催され、浅野太郎(4年)が個人（機体は関学Astir JA2319）で出場。個人：浅野太郎 6位。
		3月18日	第33回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催（～21日）され、団体：2位、個人：中島佳祐（2年）1位。獲得高度章：中島佳祐。
		5月16日	第28回久住山岳滑翔大会が開催（～22日）され、野田智美(2年)、山口真理子(2年)が会場。
		7月	千刈にある航空部格納庫改装工事完了。新シャッター取付、格納庫周辺・入口までの舗装。
		10月12日	第13回全日本学生グライダー新人競技大会が木曽川滑空場で開催（～18日）される。個人：野田智美(2年) 37位。
		11月1日	第7回関関同立対抗グライダー競技会が木曽川滑空場で開催（～11月5日）され、団体：4位。個人：高橋良典(4年) 3位、増田有一郎(2年) 11位。
		11月7日	第30回東海・関西学生グライダー競技会が木曽川滑空場にて開催（～14日）され、高橋良典(4年)が関大との合同チームで出場。団体：4位で全国大会出場権獲得。個人：高橋良典 4位。
		11月21日	京大大野合宿（～22日）に、高橋良典(4年)、野田智美(2年)、林 義弘(1年)が参加。高橋良典は京大Discus でフライト。野田智美は初ソロ。
11月28日	妻沼滑空場で行われたトレセン（～12月9日）に、高橋良典(4年)、クルーとして山本亜実(1年)が参加。		
2011年	平成23年	2月26日	海野OBのご厚意により、全国大会に出場する高橋、関大・岡本がモーターグライダーで妻沼周辺のサーマルポイントや旋回点の慣熟フライトを行う。
		3月5日	第51回全日本学生グライダー競技選手権大会（～10日 東日本大震災のため大会途中で中止）が妻沼滑空場で開催され、高橋良典(4年)が関大との合同チーム（機体は関大ASK-23）で出場。
		3月17日	第34回関関対抗グライダー競技大会は福井空港で開催（～20日）予定であったが、東日本大震災のため自粛。
		5月1日	第29回久住山岳滑翔大会が開催（～7日）され、林 義弘(2年) 12位、何 穎恩(2年) 29位。
		7月28日	奥西勇紀(2年)、山本亜実(2年)が海外遠征。フロリダ州 セミノールレイク グライダー・ポート（～8月23日）。
		10月9日	第14回全日本学生グライダー新人競技大会が木曽川滑空場で開催（～15日）され、団体：18位、個人：林 義弘(2年) 21位、山本亜実(2年) 47位。
		10月29日	第8回関関同立対抗グライダー競技会が木曽川滑空場で開催（～11月4日）され、得点は立命館の一人のみ。大会5日目に、林 義弘(2年)が初ソロ～3rdソロ。
2012年	平成24年	3月19日	第35回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催（～22日）され、ライセンサーが一人もいない複座機だけの大会となった。団体：1位。個人：林 義弘(2年) 1位、野田智美(3年) 2位。
		4月30日	第30回久住山岳滑翔大会が開催（～5月5日）され、村上健太郎（2年）、工藤美咲（2年）、松本萌子（2年）が会場。
		6月23日	関学・同志社・福井大木曽川合宿（～24日）。松本萌子（2年）初ソロ。
		8月29日	関学・府大・大工・南山木曽川合宿（～9月4日）。工藤美咲（2年）初ソロ。
		10月4日	第15回全日本学生グライダー新人競技大会が木曽川滑空場で開催（～9日）され、団体：16位、個人：工藤美咲（2年）37位、松本萌子（2年）38位。

		10月27日	第9回関関同立対抗グライダー競技会が木曽川滑空場で開催（～11月2日）され、団体：2位。個人：野田智美(4年) 2位。クルーとして参加した増井丈師(3年)が初ソロ。		
		11月5日	第32回東海・関西学生グライダー競技会が木曽川滑空場にて開催（～11日）され、野田智美(4年)、林 義弘(3年) が出場。団体：4位で全国大会出場権獲得。個人：野田智美 3位、林 義弘 16位。		
2013年	平成25年	2月23日	海野OBのご厚意により、全国大会に出場する野田智美(4年)、林 義弘(3年) がモーターグライダーで妻沼周辺の地形慣熟、旋回点の確認を行う。		
		3月2日	第53回全日本学生グライダー競技選手権大会(～10日) が妻沼滑空場で開催され、野田智美(4年)、林 義弘(3年) が関学Astir JA2319を使用して関学チームで出場。白ヒューズに苦戦し得点ならず。		
		3月16日	第36回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催（～19日）され、団体：1位。個人：増井丈師(3年) 1位、林 義弘(3年) 2位。獲得高度章：増井丈師。		
		4月28日	第31回久住山岳滑翔大会が開催（～5日）され、2年の浅野航太、越智祥太、渋谷京平、仲井 涼が出場。		
		8月22日	松本萌子(3年) 自家用操縦士実地試験合格。		
		10月10日	第16回全日本学生グライダー新人競技大会が木曽川滑空場で開催（～15日）され、団体：23位、個人：浅野航太(2年) 30位、渋谷京平(2年) 51位。		
		10月27日	第10回関関同立対抗グライダー競技会が木曽川滑空場で開催（～11月2日）され、団体：4位。個人：山本亜実(4年) 4位。		
		11月4日	第33回東海・関西学生グライダー競技会が木曽川滑空場にて開催（～10日）され、団体：9位で全国大会出場権獲得ならず（写真機材不手際）。個人：山本亜実(4年) 13位、松本萌子(3年) 15位、林 義弘(4年) 16位。		
		2014年	平成26年	3月22日	第37回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催（～25日）され、団体：1位。個人：1位、松本萌子(3年)、林 義弘(4年) 3位。
				4月30日	第32回久住山岳滑翔大会が開催（～5日）され、2年の稲谷萌、井上雄貴、梅木怜奈、辰巳彩子が出場。梅木怜奈 4位。
7月28日	新機体：Discus 買付金：550万円を日本フライトアシスタンスへ支払（関学からの貸付金および西田OBからの借入金より）。				
10月10日	第17回全日本学生グライダー新人競技大会が木曽川滑空場で開催（～15日）され、団体：16位、個人：稲谷 萌(2年) 32位、井上雄貴(2年) 40位。				
10月25日	第11回関関同立対抗グライダー競技会が木曽川滑空場で開催（～30日）され、団体：4位。井上雄貴(2年) 初ソロ。				
11月1日	第34回東海・関西学生グライダー競技会が木曽川滑空場にて開催（～9日）され、松本萌子(4年) が、関学・関大・府大合同チームで出場、全国大会出場権獲得。個人：松本萌子(4年) 2位。				
2015年	平成27年	3月1日	第55回全日本学生グライダー競技選手権大会(～8日) が妻沼滑空場で開催され、松本萌子(4年) が、関学・関大合同チーム（機体は関大ASK-23）で出場。		
		3月21日	第38回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催（～24日）され、団体：1位。個人：1位、松本萌子(4年)、鈴木太人(3年) 2位。速度賞：松本萌子。		
		4月30日	第33回久住山岳滑翔大会が開催（～5日）され、2年の工藤梨奈、堤 涼太が出場、工藤梨奈 2位、堤 涼太 9位。		
		4月	新機材車導入。日産 エルグランド（平成11年製 走行距離：112,000km 車検2年付）中島自動車より40万円で購入。しばらくはハイエースレジアスと2台体制で運用。		
		4月	三田キャンパス内に新格納庫が完成。		
		4月？	Discus 引き渡し、大利根、JMGC：日本モーターグライダークラブ。		
		5月21日	Discus 残金：403万円 支払（日本フライトアシスタンス）。機体代金・輸送費等総額：953万円。関学からの援助金:100万円・貸付金:200万円、OB・OGからの寄付金:555万円、学生負担:100万円（新月会から貸付、5年で返済）。		
		6月19日	浅野航太(4年) 自家用操縦士滑空機（上級）取得。		
		7月11日	Discus (JA05KG) 【Shingetu V】 命名式：上ヶ原キャンパス プラザ。学生26人、北原部長、杉本監督、佐々木コーチ、OB・OG約50人、大学からは、米山学生部長、学生活動支援機構 石割課長代理、勝又学生本部長 出席。		
		10月10日	第18回全日本学生グライダー新人競技大会が木曽川滑空場で開催（～15日）され、団体：16位、個人：工藤梨奈(2年) 29位、矢根利紗(2年) 39位。		
		10月17日	新格納庫お披露目式、学生、OB・OG 約40人が出席。田淵 結宗教総主事による聖書朗読、ご祈祷に続き、北原部長、辰馬新月会名誉会長の挨拶、梶田常務理事の祝辞、井上主将の挨拶、田淵宗教総主事の祝詞と式典は進んだ。		
		10月25日	第12回関関同立対抗グライダー競技会が大野滑空場で開催（～30日）され、団体：4位。		
		11月1日	第35回東海・関西学生グライダー競技会が大野滑空場にて開催（～8日）され、団体：10位。		
					鈴木太人(4年)、稲谷 萌(3年)、井上雄貴(3年) 自家用縦士滑空機（上級）取得。
2016年	平成28年	3月	第39回関関対抗グライダー競技大会は福井空港で開催予定であったが、千葉県で民家にグライダーが墜落した影響で中止。		
		5月5日	関学・関大木曽川合宿（～8日）。Discus(JA02KG) 導入後初めての耐空検査。生駒整備士、山田整備士参加。		
		5月27日	関学・OGC(大野グライダークラブ)合宿（～29）。OB 松尾・生駒・河島・佐野・渋谷が参加。		
		9月10日	機体3機：Ka-8 b (JA2136)、Astir Club III b (JA2319)、Discus(JA05KG) 展示&撮影会。学生、OB・OG 約50人参加。		
		9月24日	Grob式Astir G102 Club III b (JA2319) 引き渡し。特定非営利活動法人 葦崎市航空協会に譲渡（120万円）。		
		9月28日	第19回全日本学生グライダー新人競技大会が木曽川滑空場で開催（～10月4日）され、団体：21位、個人：升川萌夏(2年) 32位、吉田将大(2年) 51位。		
		10月	関関同立対抗グライダー競技会、東海・関西学生グライダー競技会は、10月10日の関東学生グライダー競技大会での事故（早稲田）のため中止。		
2017年	平成29年	6月16日	第40回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催（～18）され、団体：2位、個人：矢根利紗(4年) 3位。滞空時間賞：矢根利紗。		
		7月31日	ハウストレーラー（ドイツ・スピンドルパーガー社 コプラトレーラー）関西大学に譲渡（140万円）。		
		9月25日	第20回全日本学生グライダー新人競技大会が木曽川滑空場で開催（～15日）され、団体：16位。		
		10月28日	第37回東海・関西学生グライダー競技会が大野滑空場にて開催（～11月5日）され、団体：3位。個人：堤 涼太(4年) 3位。		
		11月10日	Discus(JA05KG) 大野滑空場にて、離陸後右翼端をウインチに接触、ウインチ北側に転覆して停止。搭乗者は検査の結果、異常なし。機体は大破。		
2018年	平成30年	4月29日	第36回久住山岳滑翔大会が開催（～4日）され、笠原健太(2年) 2位。		
		5月5日	関学・関大木曽川合宿（～7日）。岡田雅功(4年)、西田慎太郎(3年)初ソロ。		
		5月19日	関学大野合宿（～20日）。吉田将大(4年)初ソロ。		
		6月2日	第41回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催（～3日、16日～17日）され、団体：1位、個人：山田洋那子(4年) 2位、吉田将大(4年)・西田慎太郎(3年)・高橋克浩(3年) 3位。滞空時間賞：吉田将大。		
		7月28日	関学・関大木曽川合宿（～8月3日）。磯澤(3年)、高橋(3年)初ソロ。		
		8月	佐野俊明（昭和62年卒）教育証明取得。		
		9月9日	第21回全日本学生グライダー新人競技大会が木曽川滑空場で開催（～14日）され、笠原健太(2年) 19位。		
		10月21日	第15回関関同立対抗グライダー競技会が大野滑空場で開催（～26日）され、団体：4位。個人：山田洋那子(4年) 8位。		

		10月27日	第38回東海・関西学生グライダー競技会が大野滑空場にて開催（～11月4日）され、山田洋那子が合同チームで出場。全国大会出場権獲得はならず。
		1月26日	関学・関大木曾川合宿（～2月1日）。山田洋那子（4年）初Discus。吉田将大（4年）初ASK-23。
		2月23日	関学大野合宿（～27日）。笠原健太(2年)初ソロ。
2019年	令和元年	6月7日	第42回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催（～10日）され、団体：1位、個人：延岡治紀(3年) 1位、田原宙悟(4年) 2位、山元彩乃(2年) 4位、西田慎太郎(4年) 5位。
		8月29日	関学・関大大野合宿（～9月2日）。辻陽香(2年)、黒田哲平(3年) 初ソロ。
		8月22日	第37回久住山岳滑翔大会が開催（～27日）され、山元彩乃(2年)、辻陽香(2年)が会場。天候不良のため、1回のフライトでの基本滑翔競技となった。
		9月8日	第22回全日本学生グライダー新人競技大会が木曾川滑空場で開催（～13日）され、白石美緒(2年) 29位。
		10月19日	第16回関関同立対抗グライダー競技会が大野滑空場で開催（～25日）され、団体：3位。
2020年	令和2年	2月22日	関学大野合宿（～26）。教官として佐野・吉田、ウインチマンとして松尾・河島OBが参加。この後、新型コロナウイルス感染症のため、授業はオンラインとなり、ミーティングもオンライン、合宿は11月まで参加不可となる。
		11月12日	関学・神大・名城木曾川合宿（～15日）。大学側に提出していたガイドラインが承認され、ホテル宿泊等、様々な規制がある中、合宿参加が許可された。
2021年	令和3年	7月31日	関学・同志社大野合宿（～8月1日）。関学、同志社ともに久しぶりの合宿。二日とも最高気温が35度超の猛暑日であったが、条件は良く多くの部員が30～40分の滞空、高度700m～1200mを経験することができた。
		9月18日	関学・関大木曾川合宿（～20日）。ワクチン接種2回以上が参加基準となり、関学からは3人のみの参加となった。
		10月9日	関学・京大福井合宿（～11日）。感染予防のため、一定の条件をクリアした7人のみがホテル泊で参加。
		10月16日	第18回関関同立対抗グライダー競技会が大野滑空場で開催（～22日）され、団体：4位。 周回コンプリートし高得点が期待されたがGPSの電源が切れており無得点。
2022年	令和4年	3月24日	第45回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催（～27日）され、団体：1位、個人：渡邊詩乃(2年) 1位。
		8月20日	JMGCへ購入候補機：Discus(JA01MY)を見に行く。生駒整備士、山田整備士、海野OB、河島OB。
		10月15日	第19回関関同立対抗グライダー競技会が大野滑空場で開催（～21日）され、団体：3位。 個人：渡邊詩乃(3年) 1位。
2023年	令和5年	3月23日	第46回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催（～26日）され、団体：1位、個人：渡邊詩乃(3年) 1位。
		6月18日	Discus(JA01MY) 三田格納庫受け入れ。大野 紘(4年)、生駒整備士、河島OB立ち合い。
		8月21日	第41回久住山岳滑翔大会が開催（～28日）され、石田倅汰(2年)が会場。
		9月2日	関学・関大大野合宿（～9月5日）。山口乃永(4年) 初ソロ。大野 紘（4年）初ASK-23。
		9月5日	第26回全日本学生グライダー新人競技大会が木曾川滑空場で開催（～15日）され、石田倅汰(2年)が会場。
		11月11日	関学・名城・愛工木曾川合宿（～12日）。石田倅汰(2年)初ソロ。
		12月17日	Discus(JA01MY) 命名式：上ヶ原キャンパス 中央学生。【KABUTO】と命名。KGAAより、元木会長、松井副会長、長沼幹事長 出席。
2024年	令和6年	5月11日	第47回関関対抗グライダー競技大会が福井空港で開催（～12日）され、団体：1位、個人：高坂駿吾(2年) 1位、石田倅汰(3年) 2位。
		8月22日	第42回久住山岳滑翔大会が開催（～27日）され、竹中美智(2年)、酒井里緒(2年)が会場。
		9月15日	第27回全日本学生グライダー新人競技大会が木曾川滑空場で開催（～21日）され、高坂駿吾(2年)が会場、25位。
		12月14日	関学・立命・公立大木曾川合宿（～15日）。Discus(JA01MY) 耐空検査。

+

